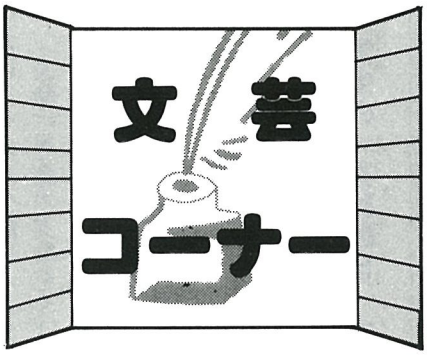


今回の児童・生徒のコーナーでは、光中のお友達の作品を紹介します。（敬称略・順不同）

詩・俳句・短歌

花の様子

2年
椎名　幸子

庭に
花一輪

つややかな　赤をだして
ひそかに、
咲いていた
その花は
バラだった

私は、そのつややかな赤を
静かに摘む。

朝

2年
小川　洋一

朝、カーテンをあけると
まぶしい光の洪水だ
ピシッとせのびして
朝の光を体じゅうにあびて

朝、窓を開けると
そよ風のおしゃべりだ
そっと耳をすませば
朝のおたより
私はそんな朝がすき

3年
大川　和枝

鳴り響くすず虫の声　夏の夜

3年
平山　聡

旋風をどこがおこすか　甲子園

3年
畔蒜　悦子

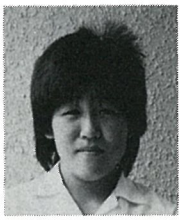
陽炎を前に見ながら　走る道

3年
飯島ゆかり

悲しげに
命なくして　落葉たち

3年
伊橋　公江

紅葉（こうよう）の
山を見つめて　思いけり



3年
会野　直美

校門を
赤くいろどる　つつじかな

山崎平八郎

里芋の土寄せ終えて鍬置けば
ひぐらしの声四方より起る

大木静波子

七年の歳月薬餌に親しみて
語る妻なく菊を愛しむ

鈴木　恵美

打水に涼風の立つ星月夜
慈雨呼ぶ雲の一片もなし

越川　雲枝

歴史館に並ぶ埴輪は目もと笑み
童の如く面の優しき

伊藤　鏡子

夕立の止みて涼風吹きわたり
八ツ手の葉うら白く返しぬ

椎名　静子

最果の大地見つめている夫の
面輪おだしき吾が見惚れいつ

竹内　紀葉

風いでて斜陽を返す池水の
照らひ庭木の肌にゆれ顕つ